

# 日本人のアップデート

## Abstract (抄録)

本探究活動では、三高生に適した三高生のための英語学習マニュアルを作ることを目的とし、その成果を探究の日などのポスター発表を通じて三高生への周知を図った。日本人が行った英語学習に特化した文献に加え、外国の研究による論文、年代分けして考えられた論文を読み、それらの結果を組み合わせる「三高生の忙しい日々で行える学習」を開発した。

*Keywords:* (キーワード:) 日本人、

## I はじめに

日本のグローバル化は人、もの、資金、情報、GDPを指標としたグローバル化インデックスランキングで28位という先進国の中でもかなり低い位置にある。

その状況を打破するために少しでも私ができることを少しずつ探し今や世界のグローバル化はどんどん進み、このまま遅れを取ってしまうと日本の経済や国際競争力の低下に繋がってしまう恐れがある。また日本人は優秀だと評価され始め、国内にいる日本人よりも海外にいる日本人の方が年収が高い。ここから私はもっと多くの人々が外国で働けばグローバル化が進むから国際競争力が上がり日本の幸せに繋がると考え、行った人の年収も高くなりその人の幸せにも繋がると考えた。そこで私ができることは身の回りの人の海外進出を助けることだと考え、日本人が外国に就職、転職しにくいと考える理由の一因である言語の壁を突破すること、すなわち第二言語習得のよりよい方法を考えることにした。

## Ⅱ 本文

まず研究方法は以下の通りである。

論文を読み、必要だと思う箇所、三高生に当てはめることのできる箇所を抜粋し、それらを組み合わせて、三高生に適した学習方法を模索することである。

そこで得られた研究結果は以下の通りである。

まず、第一に使える外国語学習で最も大切なものは「音」である。発音する、またはリスニングをするときに音は一番重要で音を聞き取れる、話せるようにならなければ言語を司れるようにはならない。たくさんの勉強法が挙げられていたが忙しく自転車通学の人が多く通学時間も活用できない私達は机の上で勉強する時間をいかに有効活用できるかが大事である。ウェルニッケ野や前頭葉といった脳の部位はリスニング、聞くことによって特定の部位を形成し、それを基盤に話すことで会話を成り立たせ、そこと通じる話す部分の脳を活用して読み書きが出来る

るようになると分かった。テキストを見てからのリスニングや日常会話ではありえないほどのゆっくりとしたスピードのリスニングでは意味がなく、相手に伝わる、伝えられるリスニングから始めるべきなのだと考えた。修学旅行を通じて、言語学習を学んだことから分かった。人間の脳は何回も繰り返すことで新たな神経回路網を形成し、物事を習得していくため、誤った方法で身につけることが1番危険であるため、正しいリスニングでまずは英語の基礎を作る。またリスニングは成長速度が遅いため早めに手を付けるべきでもある。よってリスニングで基礎をつけることが英語の習得を早める方法である。

ここで私の考察はこうである。

まずご飯時間やお風呂時間、ながらで英語を聞くことで脳に英語の音の定着を図り、その後に文法や単語などの様式的な勉強に移ることで飽きることなく勉強できる。そして長文読解などをすることで出来るという実感を湧かせることができ、英語の勉強を楽しく、また脳科学的にも有効的に行えるのであると考えた。



## References (参考文献)

<https://www2.mmc.atomi.ac.jp/web13/globalkado.pdf>

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/onseikenkyu/7/2/7\\_KJ00007631279/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/onseikenkyu/7/2/7_KJ00007631279/_pdf/-char/ja)

<https://www.efjapan.co.jp/epi/>

<https://diamond.jp/articles/-/152672?page=2>

<https://ushikubou.com/english-inaptness>

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000078.000041309.html>

<https://www.doyu.jp/topics/20180131-101237>

<https://www.tryon.co.jp/studymall/img/news/002.jpg>